

令和2年 清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会 意見等

委員氏名・所属等	資料名	頁番号	意見等	回答
水野瑞夫 (岐阜薬科大学名誉教授/自然科学総合研究所最高顧問)	資料1	p1-1	<p>○令和2年度に予定されていてできなかったアオコの成分分析を行うこと。成分分析は既報の文献があれば、参考として良いが、主に無機元素の分析を目的とする。</p> <p>○分析の結果で特異な金属元素の有無を検討し、アオコ生体の必須金属元素の含有を調査することを目的とする。</p> <p>○特殊な生体成分などは他の文献を参考にされること。</p> <p>○アミノ酸分析（遊離および加水分解物）を行うこと。</p>	<p>いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。</p>
	資料2	p2-34	<p>「②過年度調査のまとめと今後の管理方針」はよくまとめられていて、アオコ発生の管理面での指標である。</p> <p>○大江川における栄養塩類源の濃度は上流から下流の全川領域で高く、おどろくべき数値を示している。したがって、全地点がアオコ発生の潜在的な源となりえるとの理論に対して、この状態を好転させるためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低濃度、一般の水を流入して、栄養塩類濃度を低下させることが必要で、常に新しい水を供給する必要がある。導水実験（揖斐川の水）でも好結果を得ているが、半永久的に水の供給は井戸を掘るとか、湧水を得るとかの方法が考えられる。前にも提言したが再考を要する。 ・大江川に流入する人為的な栄養塩類については、下水処理の問題、水洗化などが行われ、100%の普及が望まれる。 <p>また、農業、畜産における施肥も考慮されているが一層の努力が必要である。</p> <p>○アオコ発生に対してクンショウモ属類のプランクトンの増減と関係があるとのことである、この点の精査が必要である。アオコの構成種についても引き続き形態学的な調査を行ってほしい。</p>	
	全体	-	<p>○アオコの発生をおさえること。基礎的な気象、水質検査等の調査を引き続き行うこと。</p> <p>○アオコの発生があった場合の対策（資料等からその対策は読み取ることにはできる。）</p>	
木曾川上流河川事務所長	参考資料1	p1-2	<p>○「図-2 大江川における水質浄化対策の各関係機関の役割」において、平成30年度以降は、当面の対策として実施されていた揖斐川から大江川への導水が位置付けられていません。揖斐川から導水する計画は、復活する場合がありますでしょうか。</p>	<p>揖斐川からの浄化導水については、平成29年度の協議会にて効果検証を行いましたので、現時点では導水再開は考えておりません。</p>